

柔軟な教育システムに係る懇談会（第1回）の概要

1 日 時 : 平成18年8月3日(木) 午前9時30分～11時30分

2 場 所 : 京都府庁旧本館2-M会議室

3 概 要

- (1) 教育長あいさつ
- (2) 出席者紹介
- (3) 事務局からの説明《資料別添》
- (4) 意見交換

不登校の子にとって、定時制や通信制は全日制よりも行きやすいと聞いていたが、集団生活を通して社会性を学ぶという機会は得にくい面もある。高校時代にクラブや授業で対人能力を高めておかないと大学進学後等、次のステップでさらに厳しい状況になる。また、不登校の結果、原級留置になった子に対応するプログラムが確立されておらず、そういうことも含めた柔軟なシステムを考えてほしい。

高校総合文化祭に参加している子どもたちは、目標に向かっていきいきと目が輝いていた。そういう活動を取組の中に入れて、参加させてやりたい。

不登校等は小学校から引きずる場合もあるし、中学校から起こる場合もあるが、コミュニケーション能力によるところが大きいので、学校行事等で育てている。学力不振という原因も割合として高い。加えて、中高の連携が重要であり、不登校や中退になる前に連携して対応できるようにならないか。

不登校は原因がひとつに特定できない。親の経済格差が拡大する中、私学には進めない生徒が増えているが、午前中授業で午後はアルバイトができるような柔軟なシステムをもった学校が、公立で選べるようにしてほしい。

通信制入学者の半分が中学校で不登校経験者だが、スクーリングとレポート提出、テストが行われる教科もあり、卒業するのは容易ではない。自分から選択し、学ぶ意欲がある子どもでないと難しい。また、定時制も卒業するのは半数程度である。そういうニーズに対して、どういう柔軟なシステムを作るのか、きっちり議論すべきである。

最近の生徒はちょっとしたきっかけで不登校に陥る危うさを持つ。生徒自身の問題や、家庭や個人の価値観の多様化等、人間関係が作りにくい状況にあり、不登校の原因がつかみきれない。現実問題として、不登校の大部分が長期欠席、原級留置、中退につながっているのではないか。成績不振で留年ということにはなっていない。最近では、軽度の発達障害のある子どもが普通高校に入っており、どのように対応していくのが課題になっている。新しいシステムではこれらの生徒も対象にするのか。

怠学から学力不振に陥って、結果として原級留置や中退ということになるケースが多いが、中学校での不登校傾向を引きずりながら高校に入学し、新たな環境の中でリセットできないまま、その状況から脱せないということもある。大きな集団の中で人間関係を作れないまま高校に入る。不登校傾向による原級留置は結果として中退にならざるを得ない。高校では一定の学力をつけることも使命で、そのための教育システムがあり、その中では厳しい面もある。

定時制の生徒は就労して勉強に行くという状況になく、昼夜逆転の生徒が多い。夜はパソコンやテレビ、ゲーム等で遊んでおり、親はストップさせることができない。高校から始まったのではなく、小学生・中学生もパソコン、携帯電話などを遅くまでやっている。電子汚染が小学生から大人まで進行している。世の中が変わってきているということも踏まえて、考えていかなければいけない。また、親の経済的な格差が大きく反映しており、社会システムで解決できない問題も多い。柔軟なシステムの中にそういう視点を入れていくべきである。

社会状況の問題、家庭状況の問題など、親が甘やかしすぎである。親同士のコミュニケーション、親と生徒が関わっていく活動などが大事である。学校に任せておけば良いという保護者もいる中で、親の意識改革が必要であり、後でつけが回ってくるのも保護者である。昔の人たちの生き方を教えるという教育が今の子ども達に不足しており、そういう点で伝統文化を子ども達に教えるということは意味があると思う。

親として子どものために出来るだけのことはしてやりたいと思うのは当たり前だが、経済的な面で難しいところもある。学校の枠の中で、全てが解決するわけではないが、親の思いを反映する何らかの形が、学校の制度の中で作られれば非常に良いことである。子どもを家庭だけではなく、社会全体で支えていくシステムが必要ではないか。特に、生徒たちに学ぼうとする意欲があるならば、不本意な状況で挫折してしまわないように、現在の高校の制度がしっかりしているのかどうか議論していただきたい。定時制が就労しながら通う学校といえない状況であれば、色々考えても良いのではないか。

中学時代に不登校であったことを高校側が知らないまま入学している例があり、中高連携が必要である。中学校では別室登校という形で、空いてる教員が指導するシステムがあるが、高校にはない。結局、高校というシステムになじまない子供はドロップアウトせざるを得ない。中学校であれば出席日数に数えるが、高校ではできない。高校と義務教育との問題かもしれないが。

義務教育と高校では発達段階の違いということを認識しておくべきである。それぞれのシステムの中で社会性をどのように育てていくのか。不登校のまま中学校を卒業し、高校で社会性を身につけさせようとしても、最初から不適應の状況でしか取組めない。このような子どもが大検を受けても、家に閉じこもったままで社会的に生きていけない。また、夜の概念が曖昧になってきており、夜に補導される生徒の件数が増え、夜の10, 11時になっても塾に多数行っている。きちんとした生活習慣を身に付けさせることが大人社会の責任である。

社会環境は、変化しているが、ある時期に身につけておかないといけないものは、きちんと身につけさせるのが大事。学校は学習するところで楽しいところではない。目的をもってやり遂げた喜び、苦しいことを我慢してやり遂げた喜びが次への意欲につながる。我慢が欠落した中で育ってきているのではないか。昼夜逆転のことについても家庭と連携しながら努力しているが、高校のみならず社会全体のことを見て考えていかないと難しい問題がある。

社会的自立をさせることは、一番大事だが一番難しい。今、社会状況の中で間違いなく不登校が増えている。こういう子どもたちに対応できるようなシステムが必要である。柔軟な発想がないと、結局、高校や社会などから完璧にはずされて大人になっていってしまう。

4 次回懇談会の開催日程

平成 18 年 8 月 18 日 (金) 午前 9 時 30 分から 11 時 30 分まで
ルビノ京都堀川 「ひえい」

「柔軟な教育システムに係る懇談会」説明資料

1 設置趣旨

府立高校にあっては、昭和60年度の高校教育制度改善以来、普通科の通学圏の設定、類・類型の導入、専門学科の充実など、生徒一人一人の能力や個性に対応した多様な教育を進めてきたが、その後の社会の急速な進展に伴い、能力、適性、興味、関心、進路希望等において様々な生徒が入学してきている。生徒の多くは学業、部活動など高校でのさまざまな活動に意義を見いだし積極的に高校生活を送り、進路に向けても目的意識を持って学習に励んでいるが、一方、学習でのつまづきや、集団生活への不適應、進路の変更などを理由に中途退学する生徒、進路実現に向けても意欲的な姿勢になりきれない生徒がいる。

府立高校に学ぶ生徒たちそれぞれが、個々の能力や個性を最大限に伸ばし、進路実現し、豊かな生涯を送れる資質をはぐくむ教育を推進することを期して、教育内容の多様化や履修形態の弾力化などの、一層、柔軟な教育のシステムを追求するものである。

2 現況

(1) 不登校生徒、不登校を原因とする中途退学者の現状（別紙資料）

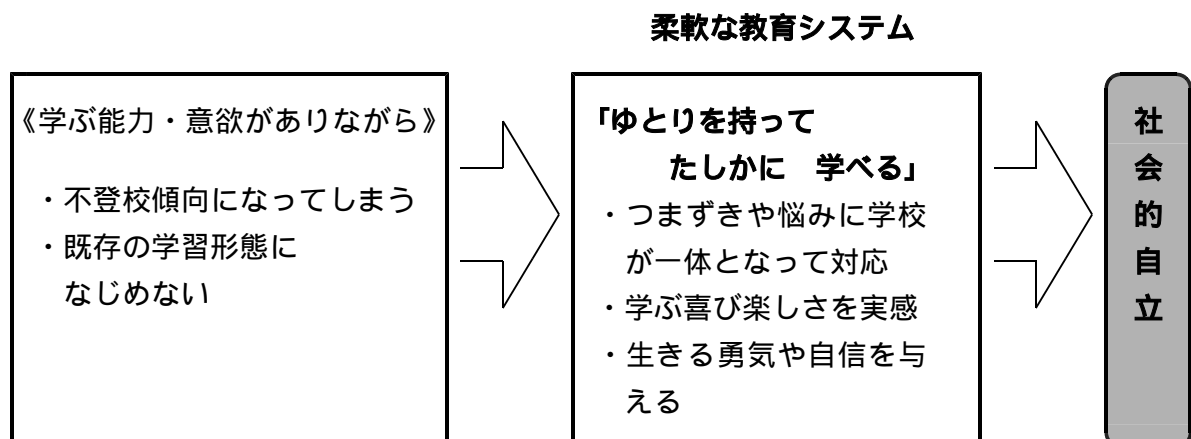
(2) 現在の履修形態

（例）全日制普通科（学年制）の場合

- ・ 一般入試選抜による入学
- ・ 一日の時程は1～6限（7限）、週あたり1時間のLHR
- ・ 1学級40名のLHR集団を核とした講座の展開
- ・ 卒業認定単位数 90単位前後（週6時間×5日×3年間）
- ・ 1年度内 欠席による不履修、成績不良等による不認定11単位以上で原級留置
- ・ 必履修科目以外において学習する教科・科目の画一性（大学進学向け）
- ・ 選択科目の制限（10単位程度まで）
- ・ 資格・検定取得や学校外の活動を増加単位として認定

3 柔軟な教育システム構想の視点

学ぶ能力、意欲があるにもかかわらず、従来の学校教育の場では自己の個性や能力を十分に発揮できない生徒を集団の中で育て、社会性と確かな学力を身に付けさせる。



資料 1

1 高等学校 不登校の状況

基 準	①長期欠席者：4月から翌年3月までの1年間に30日以上欠席した生徒の数 ②不登校状態：①の内、何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により学校に登校しない、あるいはしたくともできない状況にあること（ただし、病気や経済的理由によるものを除く） ③そ の 他：①の内、「病気」、「経済的理由」、「不登校状態」のいずれにも該当しない、もしくは2つ以上が重なり、主たる理由が特定できない者																																																																																																																																					
	生徒数	<p>〈長期欠席者〉（京都府公立・私立16年度実績・全学年 単位：人／出現率(%)）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">在籍者数 (16・5/1)</th> <th rowspan="2">中学時代長期 欠席経験者</th> <th colspan="5">高校における理由別長期欠席者数／出現率</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>病 気</th> <th>経済的理由</th> <th>不登校状態</th> <th>その他</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">全 日 制</td> <td>公立</td> <td>43,605</td> <td>573 (1.31)</td> <td>78 (0.18)</td> <td>5 (0.01)</td> <td>375 (0.86)</td> <td>89 (0.20)</td> <td>547 (1.25)</td> </tr> <tr> <td>私立</td> <td>30,723</td> <td>779 (2.54)</td> <td>184 (0.60)</td> <td>27 (0.09)</td> <td>573 (1.86)</td> <td>118 (0.38)</td> <td>902 (2.93)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>74,328</td> <td>1,352 (1.82)</td> <td>262 (0.35)</td> <td>32 (0.04)</td> <td>948 (1.27)</td> <td>207 (0.28)</td> <td>1,449 (1.95)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">定 時 制</td> <td>公立</td> <td>2,658</td> <td>697 (26.22)</td> <td>28 (1.05)</td> <td>23 (0.86)</td> <td>114 (4.28)</td> <td>171 (6.42)</td> <td>336 (12.62)</td> </tr> <tr> <td>私立</td> <td>487</td> <td>35 (7.2)</td> <td>5 (1.03)</td> <td>2 (0.41)</td> <td>40 (8.21)</td> <td>0 (0.00)</td> <td>47 (9.65)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,145</td> <td>732 (23.28)</td> <td>33 (1.05)</td> <td>25 (0.79)</td> <td>154 (4.89)</td> <td>171 (5.43)</td> <td>383 (12.16)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">合 計</td> <td>公立</td> <td>46,263</td> <td>1,270 (2.75)</td> <td>106 (0.23)</td> <td>28 (0.06)</td> <td>489 (1.06)</td> <td>260 (0.56)</td> <td>883 (1.91)</td> </tr> <tr> <td>私立</td> <td>31,210</td> <td>814 (2.61)</td> <td>189 (0.61)</td> <td>29 (0.09)</td> <td>613 (1.96)</td> <td>118 (0.38)</td> <td>949 (3.04)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>77,473</td> <td>2,084 (2.69)</td> <td>295 (0.38)</td> <td>57 (0.08)</td> <td>1,102 (1.42)</td> <td>378 (0.49)</td> <td>1,832 (2.36)</td> </tr> <tr> <td colspan="10">(参考)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">全 国</td> <td>公立</td> <td>2,609,512</td> <td>—</td> <td>9,716 (0.37)</td> <td>3,419 (0.13)</td> <td>49,860 (1.91)</td> <td>16,810 (0.64)</td> <td>79,805 (3.06)</td> </tr> <tr> <td>私立</td> <td>1,092,789</td> <td>—</td> <td>6,076 (0.56)</td> <td>1,040 (0.10)</td> <td>17,609 (1.61)</td> <td>5,704 (0.52)</td> <td>30,429 (2.78)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,702,301</td> <td>—</td> <td>15,792 (0.43)</td> <td>4,459 (0.12)</td> <td>67,469 (1.82)</td> <td>22,514 (0.61)</td> <td>110,234 (2.98)</td> </tr> </tbody> </table>											在籍者数 (16・5/1)	中学時代長期 欠席経験者	高校における理由別長期欠席者数／出現率					合計	病 気	経済的理由	不登校状態	その他		全 日 制	公立	43,605	573 (1.31)	78 (0.18)	5 (0.01)	375 (0.86)	89 (0.20)	547 (1.25)	私立	30,723	779 (2.54)	184 (0.60)	27 (0.09)	573 (1.86)	118 (0.38)	902 (2.93)	計	74,328	1,352 (1.82)	262 (0.35)	32 (0.04)	948 (1.27)	207 (0.28)	1,449 (1.95)	定 時 制	公立	2,658	697 (26.22)	28 (1.05)	23 (0.86)	114 (4.28)	171 (6.42)	336 (12.62)	私立	487	35 (7.2)	5 (1.03)	2 (0.41)	40 (8.21)	0 (0.00)	47 (9.65)	計	3,145	732 (23.28)	33 (1.05)	25 (0.79)	154 (4.89)	171 (5.43)	383 (12.16)	合 計	公立	46,263	1,270 (2.75)	106 (0.23)	28 (0.06)	489 (1.06)	260 (0.56)	883 (1.91)	私立	31,210	814 (2.61)	189 (0.61)	29 (0.09)	613 (1.96)	118 (0.38)	949 (3.04)	計	77,473	2,084 (2.69)	295 (0.38)	57 (0.08)	1,102 (1.42)	378 (0.49)	1,832 (2.36)	(参考)										全 国	公立	2,609,512	—	9,716 (0.37)	3,419 (0.13)	49,860 (1.91)	16,810 (0.64)	79,805 (3.06)	私立	1,092,789	—	6,076 (0.56)	1,040 (0.10)	17,609 (1.61)	5,704 (0.52)	30,429 (2.78)	計	3,702,301	—	15,792 (0.43)	4,459 (0.12)	67,469 (1.82)	22,514 (0.61)
	在籍者数 (16・5/1)	中学時代長期 欠席経験者	高校における理由別長期欠席者数／出現率					合計																																																																																																																														
			病 気	経済的理由	不登校状態	その他																																																																																																																																
全 日 制	公立	43,605	573 (1.31)	78 (0.18)	5 (0.01)	375 (0.86)	89 (0.20)	547 (1.25)																																																																																																																														
	私立	30,723	779 (2.54)	184 (0.60)	27 (0.09)	573 (1.86)	118 (0.38)	902 (2.93)																																																																																																																														
	計	74,328	1,352 (1.82)	262 (0.35)	32 (0.04)	948 (1.27)	207 (0.28)	1,449 (1.95)																																																																																																																														
定 時 制	公立	2,658	697 (26.22)	28 (1.05)	23 (0.86)	114 (4.28)	171 (6.42)	336 (12.62)																																																																																																																														
	私立	487	35 (7.2)	5 (1.03)	2 (0.41)	40 (8.21)	0 (0.00)	47 (9.65)																																																																																																																														
	計	3,145	732 (23.28)	33 (1.05)	25 (0.79)	154 (4.89)	171 (5.43)	383 (12.16)																																																																																																																														
合 計	公立	46,263	1,270 (2.75)	106 (0.23)	28 (0.06)	489 (1.06)	260 (0.56)	883 (1.91)																																																																																																																														
	私立	31,210	814 (2.61)	189 (0.61)	29 (0.09)	613 (1.96)	118 (0.38)	949 (3.04)																																																																																																																														
	計	77,473	2,084 (2.69)	295 (0.38)	57 (0.08)	1,102 (1.42)	378 (0.49)	1,832 (2.36)																																																																																																																														
(参考)																																																																																																																																						
全 国	公立	2,609,512	—	9,716 (0.37)	3,419 (0.13)	49,860 (1.91)	16,810 (0.64)	79,805 (3.06)																																																																																																																														
	私立	1,092,789	—	6,076 (0.56)	1,040 (0.10)	17,609 (1.61)	5,704 (0.52)	30,429 (2.78)																																																																																																																														
	計	3,702,301	—	15,792 (0.43)	4,459 (0.12)	67,469 (1.82)	22,514 (0.61)	110,234 (2.98)																																																																																																																														
分 析	<p>〈不登校状態となった直接のきっかけ〉（16年度全学年 単位：%）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2"></th> <th colspan="5">学校生活に起因</th> <th rowspan="2">家庭生 活起因</th> <th colspan="2">本人の問題起因</th> <th rowspan="2">その他</th> </tr> <tr> <th>友人関係</th> <th>学業不振</th> <th>きまり等</th> <th>入学・進級 等不適応</th> <th>その他</th> <th>病気欠席</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">京 都 府</td> <td>公立</td> <td>10.2</td> <td>20.0</td> <td>2.5</td> <td>7.8</td> <td>5.7</td> <td>9.4</td> <td>6.3</td> <td>25.2</td> <td>12.9</td> </tr> <tr> <td>私立</td> <td>12.9</td> <td>14.0</td> <td>5.9</td> <td>5.2</td> <td>4.1</td> <td>11.7</td> <td>7.7</td> <td>28.5</td> <td>10.0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>11.7</td> <td>16.7</td> <td>4.4</td> <td>6.4</td> <td>4.8</td> <td>10.7</td> <td>7.1</td> <td>27.0</td> <td>11.2</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">全 国</td> <td>公立</td> <td>11.8</td> <td>12.5</td> <td>2.5</td> <td>6.7</td> <td>4.7</td> <td>10.0</td> <td>4.2</td> <td>35.1</td> <td>12.5</td> </tr> <tr> <td>私立</td> <td>14.0</td> <td>10.4</td> <td>4.9</td> <td>5.3</td> <td>6.6</td> <td>11.6</td> <td>7.0</td> <td>30.5</td> <td>9.7</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>12.4</td> <td>11.9</td> <td>3.1</td> <td>6.3</td> <td>5.2</td> <td>10.4</td> <td>5.0</td> <td>33.9</td> <td>11.8</td> </tr> </tbody> </table>												学校生活に起因					家庭生 活起因	本人の問題起因		その他	友人関係	学業不振	きまり等	入学・進級 等不適応	その他	病気欠席	その他	京 都 府	公立	10.2	20.0	2.5	7.8	5.7	9.4	6.3	25.2	12.9	私立	12.9	14.0	5.9	5.2	4.1	11.7	7.7	28.5	10.0	計	11.7	16.7	4.4	6.4	4.8	10.7	7.1	27.0	11.2	全 国	公立	11.8	12.5	2.5	6.7	4.7	10.0	4.2	35.1	12.5	私立	14.0	10.4	4.9	5.3	6.6	11.6	7.0	30.5	9.7	計	12.4	11.9	3.1	6.3	5.2	10.4	5.0	33.9	11.8																																												
		学校生活に起因					家庭生 活起因	本人の問題起因		その他																																																																																																																												
		友人関係	学業不振	きまり等	入学・進級 等不適応	その他		病気欠席	その他																																																																																																																													
京 都 府	公立	10.2	20.0	2.5	7.8	5.7	9.4	6.3	25.2	12.9																																																																																																																												
	私立	12.9	14.0	5.9	5.2	4.1	11.7	7.7	28.5	10.0																																																																																																																												
	計	11.7	16.7	4.4	6.4	4.8	10.7	7.1	27.0	11.2																																																																																																																												
全 国	公立	11.8	12.5	2.5	6.7	4.7	10.0	4.2	35.1	12.5																																																																																																																												
	私立	14.0	10.4	4.9	5.3	6.6	11.6	7.0	30.5	9.7																																																																																																																												
	計	12.4	11.9	3.1	6.3	5.2	10.4	5.0	33.9	11.8																																																																																																																												

2 高等学校における中途退学の状況（16年度）

生徒数		(京都府公立・私立 単位：人／中退率(%))										
		公立		私立		合計						
		人数	中退率	人数	中退率	人数	中退率					
生徒数	全日制	1年	249	1.8	349	3.6	598	2.5				
		2年	155	1.1	172	1.8	327	1.4				
		3年	45	0.3	43	0.4	88	0.4				
		単位制	16	1.4	138	7.8	154	5.3				
		計	465	1.1	702	2.3	1,167	1.6				
	定時制	1年	189	26.7	10	6.0	199	22.7				
		2年	42	8.9	1	0.6	43	6.8				
		3年	27	5.5	3	1.9	30	4.6				
		4年	7	1.8	0	—	7	1.8				
		単位制	100	17.0	0	—	100	17.0				
計	365	13.7	14	2.9	379	12.0						
合計	全学年	830	1.8	716	2.3	1,546	2.0					
(参考)		全 国		全日制	38,585	1.5	24,422	2.2	63,007	1.8		
		(全学年)		定時制	14,676	13.9	214	5.4	14,890	13.6		
				合計	53,261	2.0	24,636	2.3	77,897	2.1		
分 析		(中途退学理由) (16年度全学年 単位：%)										
		学業不振	学校生活等不適応	進路変更		病気・死亡等	経済的理由	家庭の事情	問題行動等	その他		
分 析	京 都 府	公立	全定	7.7	32.7	23.4	23.2	4.9	0.9	2.4	2.4	2.4
			計	4.1	20.0	34.8	11.2	3.3	0.5	3.6	4.1	18.4
		私立	全定	6.1	27.1	28.4	18.0	4.2	0.7	2.9	3.1	9.5
			計	4.1	39.0	4.3	30.8	5.0	5.0	3.4	5.1	3.3
		合計	全定	—	64.3	—	7.1	14.3	—	14.3	—	—
	計		4.0	39.5	4.2	30.3	5.2	4.9	3.6	5.0	3.3	
	全 国	公立	全定	5.6	36.5	11.9	27.8	5.0	3.3	3.0	4.0	2.9
			計	4.0	21.6	33.5	11.1	3.7	0.5	4.0	4.0	17.7
		私立	全定	5.2	32.9	17.2	23.7	4.7	2.7	3.2	4.0	6.4
			計	7.3	39.5	19.1	16.4	3.2	2.7	4.4	3.6	3.8
合計		4.8	36.0	9.0	23.0	5.5	5.9	4.7	7.3	3.8		
計	6.5	38.4	15.9	18.5	3.9	3.7	4.5	4.8	3.8			

3 高等学校における原級留置の状況（16年度）

生徒数		(京都府公立・私立 単位：人／原留率(%))						
		公立		私立		合計		
		人数	原留率	人数	原留率	人数	原留率	
生徒数	全日制	1年	93	0.7	66	0.7	159	0.7
		2年	100	0.7	38	0.4	138	0.6
		3年	24	0.2	9	0.1	33	0.1
		単位制	0	—	0	—	0	—
		計	217	0.5	113	0.4	330	0.4
	定時制	1年	94	13.3	6	3.6	100	11.4
		2年	54	11.4	1	0.6	55	8.7
		3年	37	7.5	1	0.6	38	5.9
		4年	10	2.5	0	—	10	2.5
		単位制	0	—	0	—	0	—
計	195	7.3	8	1.6	203	6.4		
合計	全学年	412	0.9	121	0.4	533	0.7	
(参考)		全 国		全日制	14,598	0.4		
		(全学年)		定時制	4,972	4.5		
				合計	19,570	0.5		